

## 年頭所感

山口県医師会長 河村康明



新年あけましておめでとうございます。

令和4年の正月を迎えるにあたり、山口県医師会長として一言ご挨拶を申し上げます。

まず、会員諸氏にお礼の言葉を述べさせていただきます。この2年間の covid-19 感染症の対応につきましても、感染症患者の入院施設から一般の診療所まで多大なる御協力をいただき、感謝申し上げます。

特に、第4波・第5波の発生時には、医師だけでなく全ての医療に関連する職種において一丸となり、山口県内の医療体制の逼迫状態を無事に克服できた事は誠にありがたく、それぞれの役割・使命を十分に果たしていただいたと感じています。また、ワクチンの接種状況も全国トップレベルの接種率を維持し、まさに行政との一体感を示しているものだと思います。医療界だけでなく、全ての関連業種の協力で「やる気があれば何でもできる」ということを実証したと考えております。

いよいよ、ワクチンの3回目のブースター接種、5～12歳の若年層への接種など、新たな取組みが開始されます。さらなるご協力をお願いしたいと存じます。また、治療法も点滴や経口剤などわれわれの持ち得る対抗手段も増加してまいりました。これらの情報も会員の皆様と共有したいと考えており、県医師会の役割を果たす所存です。

現在までの感染の第1波から第5波までの2年間で、国民の生活様式は一変いたしました。同時に、受診形態や診療様式も以前と比べて変更を余儀なくされております。どのような状況でも対応可能な山口県医師会を目指したいと思います。

covid-19 関連のことばかりを述べております

が、有事の医療だけでなく平時の医療をも新しく展開する必要があります。われわれは今後、数年にわたって継続するさまざまな問題を抱えています。有事と平時の医療の対応は、これからも続く未知なる感染症や災害への迅速かつ組織的な対応の構築が要求されます。そのためには、各郡市医師会の医療圏内の連携が重要となります。今回の covid-19 感染症の経験を活かして、速やかなシステム作りが要求されています。

この5年の間に医師会立看護学校が2校閉鎖となりました。医師会長就任当初から危機感を持っていましたが、残念な結果となりました。これからもあらゆる支援を続けながら、医師会立看護学校の存続を図っていきます。

そして、組織強化の問題です。現在どのような組織でも、組織離れが指摘されております。山口県医師会においても、現実の状況として会員の高齢化に直面しています。会員の減少が即ち組織の弱体化に繋がらないように、若手医師の加入を求めます。勤務医・開業医の区別なく、全ての医師がシームレスに参加できる組織になることを望みます。

終わりに、新しい年がこの2年間の停滞を超越するような大きなステップになる事を願って、新年のご挨拶といたします。

## 年頭所感

日本医師会長 中川 俊男



明けましておめでとうございます。

会員の皆様におかれましては、健やかに新年をお迎えになられたこととお慶び申し上げます。

年頭のご挨拶に先立ち、この年末年始も新型コロナウイルス感染症の診断や治療、ワクチン接種はもとより、救急診療や休日診療など、医療現場でご尽力いただいているすべての医療従事者の皆様に、心からの敬意と感謝を申し上げます。

昨年は、新型コロナウイルス感染症への対応に終始した一年でした。1月8日には、関東一都三県に緊急事態宣言が発令され、その後の一年を暗示するかのような年明けとなりました。やがて、ワクチンの接種がはじまり、治療薬の治験が進み始めると、医療者として、このウイルスと闘うための有力な手段が得られることへの期待が高まってきました。そして、夏を迎えワクチン接種が本格化すると、全国の医師会員の先生方にその底力を見事に発揮いただき、ほどなくして政府が示す「1日100万回接種」の目標をはるかに超え、最大167万回の接種を達成することができました。これは全国の医師会の偉業だと思いました。

しかし、今年の夏には全国で爆発的な感染拡大が起きました。特に大都市では、医療提供体制が逼迫し、私が死守すべきと考えていた新型コロナ医療とコロナ以外の通常医療の両立が危うくなりました。どちらの医療も命の重さに変わりはありませんが、通常医療を制限してでもコロナ医療を、そしてコロナ病床を確保せよという論調も社会に拡がり始めました。

世界一、平等で公平な日本の公的医療保険制度は風前の灯火かのようなでした。私は、17万3千人の会員の先生方に直接手紙を差し上げました。

すでに、他職種の医療従事者の皆様と限界までコロナと闘っているのは承知の上でしたが、どうか、もうひと踏ん張りのご協力をお願いしたいとの切実な思いからでした。

手紙に対してさまざまな反応がありましたが、多くの先生方と危機感を共有し、絶対に負けない、諦めないという連帯感を強く感じることができました。

この間にも、先生方にはコロナ医療、ワクチン接種、通常医療に献身的に取り組んでいただきました。そして11月に入り猛威を振るった新型コロナウイルスの感染者数が減少に転じ、12月には「収束」と言える状況になりました。

全国の医師会の先生方と世界的に見ても高い公衆衛生意識を持っている日本のすべての人々の勝利だと確信しました。

しかし、「終息」したわけではありません。敵はしたたかです。年末には新たな変異株も発見されました。まだまだ、闘いは続きます。がんばりましょう。

昨年10月には岸田内閣が発足しました。日本医師会は医療界を代表する専門家集団として、これまで以上に現政権とともに今後の医療政策のあり方について胸襟を開いて議論しあえる関係を築いていこうと思っています。

日本医師会の主張に応え、都道府県医療計画の「5疾病・5事業」に新興感染症等への対策が加えられ、6番目の事業になりました。次の医療計画は2024年からですが、これを前倒して進めていくことが重要です。すなわち、新型コロナウイルス感染症の再拡大だけでなく、新たな感染症

の脅威にさらされた場合においても、人々の生命と健康を確実に守ることのできる体制を平時から盤石にしておくことが急務です。

感染症に対する医療の備えを十分に整えた上で、人々の暮らしを取り戻し、社会全体の経済を回復していくことが、今後一貫して目指すべき重要な課題です。日本医師会は、この課題の克服に向けて、会員の先生方のお力をお借りして、国とともに全力で取り組み、かけがえのない地域医療を守り支えていきます。

さて、私ども執行部は、国民皆保険を守るため、新型コロナウイルス感染症下であろうとも、安心・安全な医療の維持、確保に努めています。

私は平時の医療提供体制の余力こそが有事の際の対応力に直結すると訴え続けてきました。平時の地域医療を支えるためには、財源の確保は絶対です。ましてや今は、新型コロナウイルス感染症に立ち向かっています。医療従事者の働き方や医療機関経営を犠牲にしても、感染リスクや風評にも耐え闘ってきました。必ず迎えるポストコロナの医療提供体制への道筋をつけなければなりません。

医師をはじめとする医療従事者の働き方改革、医師偏在対策、病床機能の自主的な収れん、外来医療機能の分化・連携、医療のデジタル化等、多くの重要課題が山積しています。日本の医療を将来につなぎ、さらに向上させるため、これらの課題を一つひとつ着実に、そして前向きに乗り越えます。

今、私たちは、新型コロナウイルス感染症との闘いという長いトンネルの中にあります。しかし、新たな変異ウイルスや感染再拡大に対する備えを緩めることなく、トンネルを駆け抜け、まさに希望あふれる記念すべき年となることを願っています。

新しい年が会員の先生お一人お一人にとって充実した佳き年となりますことを祈念申し上げ、年頭に当たってのご挨拶といたします。

本年もどうぞよろしくお願い申し上げます。

## 年頭所感

山口県知事 村岡 嗣政



明けましておめでとうございます。

すがすがしい新春を迎え、謹んで新年のお慶びを申し上げますとともに、皆様にとりまして、今年がより良い年となりますことを心からお祈り申し上げます。

山口県医師会の会員の皆様方には、本県の保健医療行政をはじめ、県政全般にわたり、格別の御理解、御協力を賜るとともに、県民の命と健康を守るために日夜、最前線で御活躍いただいております。心から感謝申し上げます。

とりわけ、新型コロナウイルス感染症対策におきましては、皆様の御尽力により、変異株の影響等による患者の急増の波を乗り越えるとともに、全国トップクラスのワクチン接種率により、10月末までに希望する県民の方の接種を完了することができました。

入院患者の受入れはもとより、宿泊療養者等への対応、看護職員の応援体制の確保など、多大な御理解、御協力を賜り、重ねて厚くお礼申し上げます。県としましては、今後とも、県民の命と健康を守ることを最優先に、保健・医療提供体制の強化やワクチンの追加接種の円滑な実施など、新型コロナウイルス感染症の感染拡大に備えた体制整備に引き続き、しっかり取り組んでまいります。

さて、本格的な少子高齢化社会を迎える中、県民が生涯を通じて健康で安心して暮らせるためには、良質かつ適切な保健・医療の提供体制の構築が重要です。

このため、県では、「地域保健医療体制の確立」を基本目標とする第7次山口県保健医療計画に基づき、県民の皆様への安心・安全を支える保健医療体制の構築と、地域の保健医療を担う人材の確保・資質の向上という視点から、総合的に施策を推進しており、昨年7月には、医療従事者の人材確保

に向けて、「山口県医療人材総合相談窓口」を新山口駅北口の山口市産業交流拠点内に新たに設置し、求人・求職相談や復職支援など、幅広く相談に応じる体制を構築したところです。

今後とも、計画最終年度の令和5年度に向け、保健医療体制の整備を進めるとともに、昨年の医療法改正により、次期保健医療計画に規定することが義務付けられた「新興感染症等の感染拡大時における医療」への対応についても、本県の新型コロナウイルス感染症の状況等を振り返り、県民のニーズを踏まえ、内容を検討してまいります。

もとより、新型コロナウイルス感染症対策をはじめ、こうした保健医療施策を推進し、新たな計画を策定していくためには、山口県医師会の皆様方のお力添えが不可欠と考えていますので、一層の御支援と御協力を賜りますようお願いいたします。

今年の干支は、「<sup>みずのえとら</sup>壬寅」です。「<sup>みずのえ</sup>壬」は、「妊」と同様に生命の誕生を宿すという意味があり、「<sup>とら</sup>寅」は、「春が来て草木が生ずる状態」や「成長していく様子」を表し、冬の厳しい寒さを乗り越えた後、春の陽気をうけ、芽吹いていく様子を思わせます。

私は、山口県医師会の皆様をはじめとする関係団体や市町、県民の皆様との連携の下、総力を結集しスピード感をもって、県政が直面する課題を乗り越え、コロナの時代にあっても成長し、飛躍する年にしたいと考えていますので、皆様の御支援、御協力を賜りますようお願いいたします。

終りに、山口県医師会の益々の御発展と、会員の皆様方の御健勝、御多幸を心からお祈り申し上げます。年頭のあいさつとさせていただきます。